

先輩からのメッセージ

Message



Message

農学専攻
品質設計開発学分野
修士課程 1 回生
泉 千花穂



農学専攻では「生態系と調和した効率的・安定的な生産と品質向上」を目指し、さまざまな作物や技術を対象に研究が行われています。各分野の研究はいずれも、知的好奇心を満たし、人々の生活に貢献できる魅力的なものばかりです。

私の所属する品質設計開発学分野では、食品中のタンパク質について研究しています。私は、学部の授業で、アレルギーの多様さや患者数の増加を知ったことをきっかけに、それまで自分とは無縁だったアレルギーに強く興味を持つようになり、当分野に進学しました。現在は、柑橘類に含まれるアレルギー原因タンパク質の解析を進めています。柑橘類やアレルギーに関する知識を深めながら、未知の結果を探求する面白さを実感しています。

また、専攻の仲間たちと語り合う時間も私にとって大切なひとときです。研究内容や考え方、卒業後の進路も多様な仲間と、互いに刺激し合いながら日々多くを学んでいます。

大学院で過ごす数年間は、研究活動はもちろん、共に学び、支え合う仲間との時間によって、非常に豊かなものになると思います。皆さんが「ここで学びたい」「ここに入ってよかった」と思える研究室に出会えることを願っています。

Message

森林科学専攻
森林生態学分野
修士課程 1 回生
南 律子



森林科学専攻では、森林に関する多様な研究が行われています。森林の利用や保全、木材資源から生態系のしくみまで、森をさまざまな角度から科学することができます。近年、気候変動や生物多様性の損失など地球環境問題が深刻化する中で、森林の役割や生態系の理解がますます重要になっています。

私が所属する森林生態学分野では、森林生態系における生物多様性や物質循環、資源保全などの観点からその仕組みを探っています。森林生態系は、樹木を中心に多くの生き物が関わり合いながら成り立つ複雑で魅力的な世界です。そのつながりや働きを解き明かしていくことは、森の中に隠れた法則を見つけるようなワクワクする体験です。

私はリモートセンシング技術を用いて広葉樹の樹形を三次元的に解析し、地上部バイオマス量推定の精度向上に取り組んでいます。最新の技術を使うことで今まで計測が困難であった樹冠形状や枝ぶりを再現し、評価できることが面白いです。

自然や生き物が好きな方、ぜひ一緒にこの奥深い森の世界を科学していきましょう。

Message

応用生命科学専攻
植物栄養学分野
修士課程 2 回生
播本 慎太郎



応用生命科学専攻では、食糧難をはじめとする地球規模の問題解決に向け、「科学的に解き明かした「生命」現象を社会に「応用」することを目的とした研究が行われています。基礎科学的研究による生命現象の分子レベルでの理解にとどまらず、そこで得た知見を基盤に応用研究へと展開することで、私たちが生きる社会を持続可能で豊かなものにするための新技術の開発を目指しています。

私の所属する植物栄養学分野では、光合成の光エネルギー変換反応などの植物栄養代謝を支える分子メカニズムを、生理・生化学的に解析する研究を行っています。得られた知見は、植物の環境ストレス応答などの生理現象の詳細な理解につながり、作物の生長促進や植物代謝機能を利用した有用物質生産といった社会的価値の高い研究へと発展させています。その中で私は、低温ストレス条件下における高等植物の光合成電子伝達制御機構の研究に取り組んでおり、この研究結果は将来的に低温ストレス耐性を持つ作物品種の作出に繋がると考えています。

本専攻では他にも物理化学、生化学、有機化学、分子生物学など幅広い学問分野について、生命現象をミクロから個体のレベルで追求できる環境が整っています。是非研究室を訪問し、先生方や先輩達と交流してみてください。あなたの知的好奇心を刺激する、魅力的な研究に出会えるはずです。

Message

応用生物科学専攻
生殖生物学分野
修士課程 2 回生

川上 咲季



応用生物科学専攻の特徴は、行われている研究の多様さです。扱う対象は動植物から昆虫、微生物まで幅広く、研究内容も、生命現象の解明を目指すような研究からその社会実装を志向する研究まで様々です。分子生物学的な手法からフィールド調査まで、手法も多岐にわたります。

私が所属する生殖生物学分野では、哺乳類の初期胚を対象に、発生の進行に伴ってダイナミックに変化する遺伝子発現制御のメカニズムを探求する研究を行っています。中でも私は、進化の過程でゲノムに入り込んだウイルス由来の DNA 配列が果たす、初期胚発生での遺伝子発現制御の機構について研究しています。

もし少しでも気になる研究室があれば、ぜひ気軽に足を運んでみてください。そして、そこでふと心が動く瞬間があれば、その感覚を大切に追いかけてください。私自身、「何となく惹かれたから」という理由で現研究室に入りましたが、知識が増えるにつれて興味が広がり、今は、「ゲノムが不安定になる仕組みが、なぜ生物の初期胚で広く保存されているのだろうか?」という問いを持ちつつ研究を楽しんでいます。

訪ねた研究室で、あなたの中に夢中になれるような「問い」が芽生えるかもしれません。

Message

生物資源経済学専攻
農業食料組織経営学分野
修士課程 1 回生

木村 有希



大学院といえばひたすら研究というイメージを持たれる方も多いかもしれませんが、私はあえて、大学院の授業の魅力について書きたいと思います。

学部での授業は、すでに確立された研究成果をスライドや板書の講義形式で教わることが多かったかと思います。しかし、大学院の授業では、学部時代に教わった理論やそれに関連する研究を、専門書の輪読と先生とのディスカッションを通じてより深く学びます。先生方との距離もずっと近づき、簡単な質問をその場ですることもできます。一を聞いたら十が返ってくるような、深大な知識量と鋭さに圧倒される経験は、大学院ならではの経験です。

私は現在、大学院の講義を通じて新しく思いついた研究テーマを、先生とのディスカッションを通じて模索しています。難しさは常に感じますが、それと同時に、非常にワクワクする作業でもあります。

大学院には研究の材料がたくさん転がっています。研究について今の時点で不安を覚えている人も、ぜひ前向きな気持ちで進学してみてください。

Message

地域環境科学専攻
農業システム工学分野
博士後期課程 2 回生

櫛原 ひな



地域環境科学専攻では、私たちの生活の根底にある自然環境と農業・農村地域の保全や私たちの発展に順応したシステムの改良について研究しています。ここでは工学的な視点だけでなく、生態学や地球全体を視野に入れて複合的な視点で環境問題の解決を目標としています。

私の所属する農業システム工学分野では農業現場をシステムとしてとらえ、バイオマス、エネルギー、データサイエンス、圃場センシング、環境制御による植物応答、循環型食料生産等の視点から研究を進めています。私は肉牛糞をメタン発酵に利用することで、堆肥化による N₂O の発生を抑制しつつ肥料化とエネルギー回収を行うことを目標に研究を行っています。日本の畜産形態の強みを活かした持続可能な資源利用方法として提案できるよう検証を続けています。

地域環境科学専攻では幅広い研究室が集まっており、ぜひ研究室一覧を確認して欲しいと思います。少しでも興味を惹かれる研究室があれば一度訪問してみてください。

Message

食品生物科学専攻
栄養化学分野
博士後期課程 1 回生

五百蔵 葉月



食べたものが健康状態にどう影響しうるのかに興味があり、当専攻に入りました。私が所属する栄養化学分野では、神経科学や内分泌代謝学、分子生物学などのアプローチを用いて、体の栄養素ニーズに応じて栄養素摂取を調節する機序に関する研究を行っています。私自身は、臓器連関シグナルに着目して、エタノール摂取を調節する機序の解明に、細胞および動物モデルを用いて取り組んでいます。食という日常的な行動の背景に存在するメカニズムを分子レベルで追求できる点に魅力を感じています。

当専攻では、生命現象の解明を軸として、食と健康に関する課題の解決を目指しています。食品の設計や栄養素の代謝・生理機能に関する研究、機能性食品や医薬品への応用、微生物利用などの研究テーマが、分子・細胞・個体レベルで行われており、食という切り口での括りではありながらも幅広い研究が展開されている点の特徴だと考えています。

興味を持たれた方は是非、いろいろな研究室を調べて、訪問してみてください。自分が抱えている興味や問題意識に真剣に向き合うことのできる、また、それらに対処する力を身につけられる場所と思います。

修了生のキャリア

Message



Message

地域環境科学専攻
森林生態学分野
2022年修士課程修了
環境省自然環境局
野生生物課鳥獣保護管理室

木子 雅水



私は大学院在学中、森林生態学研究室に所属し、森林構造と鳥類群集の関係性についての研究に取り組みました。研究では、針葉樹人工林の景観レベルの面積比率が異なることで鳥類群集にどのような差異が生じるのかについて明らかにすることを目的に、京都東山を調査サイトとして植生や鳥類の調査研究を行いました。

修了後は、“生物多様性”を軸に幅広い政策課題に取り組みたいという思いから、環境省に入省し、これまでレンジャー（環境省自然系職員）として、主に野生生物関係業務（許認可事務、外来種対策、希少種保護増殖事業、鳥獣保護管理業務）に従事してきました。業務執行に当たっては、有識者や関係団体等からの意見を踏まえて行政として何をすべきかを判断して計画立案し、多様な主体と協働して事業を進める必要があると考えておりますが、このようなときに大学院での学びを通して得た知識やセンス（自然環境を見る目）が実務基盤となり役立ったと実感しています。

今後も現場勤務などを通してさらに経験を積んでいき、職務を通して、自然環境の価値が広く認められ、保全と持続可能な利用が両立しているような自然共生社会の実現に貢献したいと考えています。

Message

農学専攻
植物生産管理学分野
2024年修士課程修了
株式会社西山酒造場 製造課

張 芸瑄



私は在学中、コムギ野生種の遺伝解析に関する研究に取り組んでいました。植物生産管理学研究室は、先生の人数が多く、研究内容もとても幅広いです。研究材料や手法はそれぞれ異なりますが、先生方の研究への情熱や実験に向き合う姿勢に深く感銘を受け、大変勉強になりました。その中で、自分も「楽しみながら夢になれる仕事をしたい」と思うようになりました。

学部時代から穀物に最も興味を持っており、さらに発酵を通じて穀物や品種の個性を引き出すお酒にも魅力を感じ、酒造りの道を選びました。現在は日本酒造りに携わりながら、醸造の知識と技術を学んでいます。また、海外からの研修生やお客様の対応も行い、日本酒文化を世界に広める活動にも取り組んでいます。将来的には、大学院で学んだ農学・育種学の知識と、身につけた醸造技術を活かして、酒を通じて穀物の魅力を世の中に伝えていきたいと考えています。

在学中の皆さんも、研究に取り組む姿勢のように、失敗を恐れず挑戦し続けながら、自分が夢になれることを追いかけてください。

Message

応用生命科学専攻
化学生態学分野
2020年修士課程修了
日本曹達株式会社 研究開発本部リサーチ
&イノベーションセンター安全性研究部

矢野 まりこ



私は修士課程で「ダイズ品種ベキングが示すハスモンヨトウ抵抗性」をテーマに研究に取り組んでいました。様々な分析機器を駆使して化学物質の構造を解明することに魅力を感じて研究室の門を叩いたのですが、実際には、抵抗性という現象そのものを確かめるために、地道にダイズやハスモンヨトウを飼育管理することに多くの時間を費やしました。想像していた研究とは異なる点もありましたが、教授や研究室メンバーと時には夜遅くまで研究について語り合う中で、研究に対する真摯な取り組み姿勢を学ぶことができました。

修了後は農業メーカーに就職し、現在は放射性標識された農薬を用いた分析研究を担当しています。開発した農薬が動物・植物・環境中でどのように代謝分解され、どのような構造の物質になるのかを決定する仕事です。大学院で学んだ分析機器を用いた構造決定の技術は、まさに今の仕事に直結しています。職場では異なる専門分野を持つ人々と協働する機会があり、応用生命科学専攻で幅広く学んだ知識が、円滑なコミュニケーションの土台となっています。今後は、現在の専門性をさらに深めるとともに、AIをはじめとするデジタル技術の活用にも取り組み、革新的な農薬の開発に貢献していきたいと考えています。

振り返ると、大学院での研究経験やそこでの出会いが、今の私の基盤となっています。ぜひ、研究に真剣に向き合い、先生方や周りの学生とのコミュニケーションを大切にしてください。そのすべてが、その先の人生につながっていきます。

Message

応用生物科学専攻
動物栄養科学分野
2020年修士課程修了
ハーゲンダッツ・ジャパン株式会社
ものづくり本部

西山 真奈美



私は、学部・修士の3年間で、ラットにおけるマグネシウム欠乏が代謝に及ぼす影響や、とろろ昆布由来のマグネシウムの生体利用性についての研究を行いました。現在は、R&Dセンターで新製品の中味開発や、使用原材料のソーシングを行っています。食品メーカーへ就職したのも、様々な栄養状態のラットを観察・分析したことで、「身体は摂取した物質によって構成され、影響される」ということを実感し、より良い食品を多くの人に届けたいからかもしれません。

寺田寅彦の「科学者とあたま」は、研究を志す方にはぜひ一読してほしいのですが、それによると、『科学の世界ではすべての間違いは泡沫のように消えて真なもののみが生き残る。それで何もしない人よりは何かした人のほうが科学に貢献するわけである』のです。私は研究者の道には進みませんでした。世界のだれもまだ知らないことを、先人達の知恵を借りて探求し、先生方に助けていただきながら発表した研究の日々は、人類の知の集積に僅かでも参加できたようで、今も誇らしくあります。皆さんもぜひ、何でもよいので研究に没頭し、科学の営みに参加する楽しみを味わってください。

Message

生物資源経済学専攻
農学原論分野
2025年修士課程修了
農林水産省 農林水産技術会議事務局
榊原 真子



在学中は、首都圏で行われている都市型狩猟採集をテーマに、聞き取り調査やフィールドワークを行い、環境社会学の視点から修士論文を執筆しました。修了後は、豊かな自然環境を維持し、それらと共生していくには一次産業の振興が不可欠であると思い、農林水産省に入省しました。現在は、スマート農業や品種開発の推進を担当する部署に配属され、政策立案や調整業務に従事しています。研究を通して得られた、人々の語りに耳を傾け、そこから多様な価値観を見出そうとした経験は、日々の仕事にも繋がっていると感じています。

生物資源経済学専攻や農学原論分野は、食・農業・コミュニティなどの多様なテーマに対して、一人ひとりの関心を出発点とした幅広い研究が展開されており、多角的な議論ができる場所です。皆さんもぜひ、自身の興味の赴くままに、先生方や専攻の仲間たちと議論を重ね、充実した研究生活を送ってください。

Message

地域環境科学専攻
施設機能工学分野
2025年3月修士課程
中部電力株式会社原子力本部
原子力土建部

北門 菜摘



私が所属した研究室では、農業水利施設を対象とした地震や豪雨による挙動予測、施設内部の可視化を研究していました。私は、その中でも施設内部の水の挙動予測の発展に向けた実験に携わり、ため池や地盤など幅広い応用先への可能性に魅力を感じて研究に取り組んでいました。

修了後は、電力会社の土木部門に入社しました。農業土木分野の専門性を活かして、就職後も土木施設に携わりたいと考えたためです。また、高校時代からの環境問題への関心も志望動機の一つでした。現在は原子力発電所の再稼働に向け、取水トンネルや防波壁など土木施設の安全性を検討する業務に携わっており、学生時代の研究目的とも通じる内容であると感じています。また、脱炭素化への貢献という強いやりがいも実感しています。

大学受験時は安直にも『環境』が含まれた学科名に惹かれて当専攻を選びましたが、気づけば農業土木の魅力に気づかされました。些細なきっかけであっても、目の前のことに真剣に向き合う中で、興味が深まることを実感しました。皆さんも、学生生活を通して自分の道が見つかることを祈っています。

Message

食品生物科学専攻
生命有機化学分野
2025年博士後期課程修了
京都大学総合研究推進本部
研究プロモート部門

内野 歩美



私は博士後期課程を修了後、京都大学総合研究推進本部にURA (University Research Administrator) として就職しました。URAとは大学などの研究機関における研究支援人材であり、私は現在主に研究者に対する研究費の情報提供や、研究費を獲得するための個別支援に従事しています。

私は大学院で研究する中で、大学は直接的な研究・教育以外にも多くの業務によって成り立っているということを目の当たりにしました。このような経験から研究支援職に興味を持つようになり、現場に近いところで研究者を支えられるURAになることを選びました。大学院で得た専門知識や研究の経験は間違いなく今の業務に役立っていますが、同時に研究を通して学んだ広い視野を持って誠実に物事に取り組む姿勢は、URAとしてだけでなく社会人としての自分の基盤になっていると感じています。

就職後はURAの業務内容の幅広さを知り、研究支援の重要性や奥深さを実感しています。将来的には研究者個人との対話を大切にしながら、大学全体の研究活動の活性化にも貢献できるよう努めていきたいです。